

## 漢魏洛陽故城の保護及びその園林

孫 紅 飛<sup>\*</sup>

訳 趙 虎 龍

## 一、漢魏洛陽故城の概略

漢魏洛陽故城は現在の洛陽市の東15km離れた伊洛平野にある。故城の建設は西周時代の初頭(BC11世紀)に始められ、唐代の初頭(AD7世紀)に廃棄されるまで相前後して1,600年間近く使用された。東周、後漢、曹魏、西晋、北魏などの王朝は相次いでここに都を置いた。確かな歴史資料と考古発掘の成果によると、漢魏洛陽故城に君臨した帝王は39名、都城としての時間は合わせて541年間に達するとのことである(西周、東周時代の遺跡の発見がおそく、材料も少ないため、ゆえに“漢魏洛陽故城”と俗称されている)。

漢魏時期の都である洛陽は全国の政治、経済、文化、交通の中心だけではなく、世界的にみても著名な東方大都市であり、またシルクロードの東の起点でもある。漢魏洛陽故城の人口は後漢順帝永和5(AD140)年の時に一番多くて101万人以上に達し、面積は北魏の時期に一番大きく、外郭城を含めて100km<sup>2</sup>に及び、近代以前世界的にみて最大の都城遺跡である。また、中国すべての都城遺跡の中でも都城としての時間が一番長く、規模が一番大きく、なお保存状態が比較的によい古城遺跡でもある。それが後の都城の建築形態、設計企画などに1,000年以上もの影響を与えた。

千百年の間、桑海の変を経て千年錦繡の帝都は僅か断続的な城壁が残存し、空に輝いている星のようにその燦然たる歴史を物語っている。主な遺跡は内城、宮城、北魏の皇室寺院である永寧寺遺跡、中国で始めて国によって建立された寺院である白馬寺遺跡、漢魏時期の国立大学である太学遺跡、漢魏時期皇室の礼儀制度と祭祀の建築である明堂と辟雍遺跡、中国古代で一番古い天文台である靈台遺跡、後漢の刑徒墓地及び盗掘に伴って大量の国宝が出土した東周王陵である金村大墓遺跡などがある。



<sup>\*</sup>洛陽白馬寺漢魏故城文物保管所

40年以上の探査、発掘、研究によって漢魏洛陽故城の構造配置と主な内容が基本的に判明した。これは漢魏洛陽故城の保護と漢魏歴史の研究に堅実な科学的基礎を提供した。1961年、漢魏洛陽故城は中国国務院によって第一期全国重点文物保護單位に指定された。1973年、全面的に漢魏洛陽故城の保護と研究の責任を担当する専門な管理機関である洛陽白馬寺漢魏故城文物保管所が設立された。2006年、漢魏洛陽故城は36か所中国国家第一期重点保護大遺跡の一つと認められ、2007年、正式にシルクロード世界文化遺産連合申請の構成資産となり、漢魏洛陽故城の保護展示のレベルと規模がより一層向上している。現在、漢魏洛陽故城国家考古遺跡公園の建設及びユネスコ世界文化遺産の審査準備の仕事に取り組んでいる。



漢魏洛陽城大極殿発掘現場

## 二、近年来漢魏洛陽故城文物保護の成果

- 1、2007年1月－2008年4月、宮城の正門閶闔門遺跡保護展示工事完成
- 2、2009年6月－12月、内城の東北城壁遺跡保護展示工事完成
- 3、2010年5月－10月、内城の東北城壁の模擬馬道建設工事完成
- 4、2010年6月－12月、宮城二号門（止車門）遺跡保護展示工事完成
- 5、2010年10月－2011年3月、銅駝大街遺跡保護展示工事完成
- 6、2011年1月－4月、二号門の前の広場緑化工事完成
- 7、2011年10月－2012年10月、宮城三号門（端門）遺跡保護展示工事完成
- 8、2011年11月－2012年9月、内城の東北城壁の断面保護展示工事完成

9、2011年12月－2012年10月、宮城西南角遺跡保護展示工事完成

10、2013年の仕事：内城の西城壁遺跡（中段）保護展示工事、西門内大街遺跡保護展示工事完成、宮城城壁と宮城門の標識、シルクロード審査専門家考察道路の建設、西陽門遺跡と大極殿遺跡の考古発掘など。これらの仕事は現在すでに終了した。

以上のように一連の建設工事が終わることにより、漢魏洛陽故城考古遺跡公園の基本的枠組みがおおむね整えられた。

### 三、漢魏洛陽故城の園林

都城建設の重要な構成部分の一つである園林建築は、洛陽においてその建設と共に、発生・発展・繁栄の過程を経てきた。歴代朝廷の皇室・高官・貴人、そして文人墨客たちは洛陽に多くの園林を造った。したがって、「天下の名園は洛陽を重んず」と称された。

#### （一）後漢時代の園林

洛陽の園林建築は秦漢時代に造り始められた。漢代以前の園林建築はほとんど帝王が狩猟する場所で、規模が大きい。また、自然の山水に基づいて造ったものが多いため、自然の要素を比較的によく保留している。全体から見ると、園林建築が粗末で設計の精細さは足りなく、自然型の園林に属する。

後漢時期において、洛陽城の園林は主に上林園、顕陽園、顕明園、鴻徳園、平楽園、濯龍園、西園、広成園などがある。邙山の上にある上林園を除けば、ほとんど城の西北あるいは南に分布している。園林建築には、高くて大きな殿堂や望楼が建てられた。しかし、その規模や面積は比較的に小さい。

**濯龍園**：洛陽城の西北の角にあり、北宮と通じる。園内に海に見立てる池を穿ち、假山や「雲台風観」を造り、「水を引き皋より飛ばし、瀾を傾くること瀑布」のようである。滝の音は雷のようになる。また、茂林修竹が植えられ、詩歌や絵画の境地を有する園林の素晴らしい景色が人を引き付けている。

**西苑**：洛陽城の上西門の内、北宮の西に位置しており、西園とも呼ばれる。後漢順帝元嘉元（132）年に造営されたもので、中には宮殿があり、皇室の離宮や離園にもなった。その面積はかなり大きく、『元河南誌』には、「西苑の周囲は三千三百歩ある」と記載されている。また、靈帝中平二（185）年には、西園の中に万金堂が造られた。東晋の王嘉は『拾遺記』で西苑の様子について、「緑苔を採りて階を被<sup>おほ</sup>はしめ、渠水を引きて以て砌を繞らしむ。周流は澄澈にして、船に乗りて以て遊漾す」と記している。

後漢時代には、皇室が大々的に園林を造営するばかりではなく、官僚や貴族たちも、自身の財力と権力により、私有園林を造りはじめている。たとえば、沁水公主園や梁冀園などがあらわれた。その中、梁冀園はもっとも規模の大きなものであった。

**梁冀園林**：『後漢書』梁統列伝には、「（梁冀）広く園囿を開き、土を採り山を築く。十里九坂にして、以て二嶠に象る。深林絶澗は自然の若き有り、奇禽馴獸はその間に飛走す」とある。

私邸園林を造るため、梁冀は贅を尽くしている。梁園の中にはたくさんの人工の築山が造られている。これは基本的には自然の景観を真似ており、後の私邸園林の模倣対象となったのである。

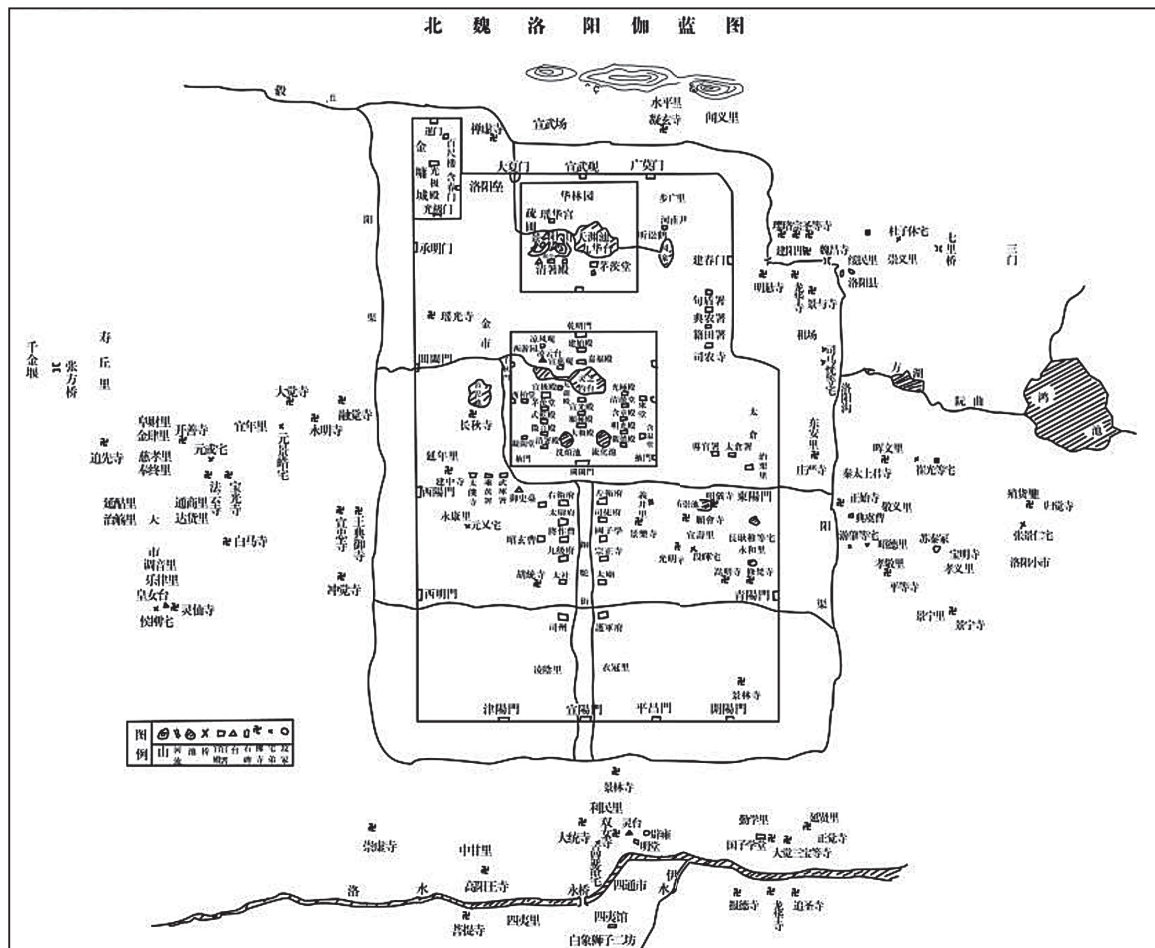
#### （二）魏晋時代の園林

西晋時代は、曹魏時代の洛陽城の建築規模を完全に継承している。したがって、魏晋時代の園林建築はおおむね同様のものといえる。魏晋時代の園林は主に芳林園、西游園、芳疎園、金谷園などがある。

**芳林園**：城内の北部に位置し、宮城と接している。漢代に創建され、曹魏時代に拡張されている。後に、齊王曹芳の名を忌避するため、華林園と改めた。曹魏時代には、谷水から水を園内に引き入れ

て、天淵池を造った。また、明帝の時にはその中に靈禽園を造り、そこで全国各地から献上された奇鳥珍獸を飼っていた。曹魏景初元(237)年には、更に園内の西と北にそれぞれ龍と鳳凰が一体ずつ鑄造された。龍の高さは4丈、鳳凰のほうは3丈ほどあり、芳林園の壮美さがより一層増すことになった。西晋時代には、多くの建物が増築され、また果樹もたくさん植えられていた。『元河南誌』には、方壺・蓬萊山・曲池が増設され、園内に百果園も増やされ、果樹種類によってそれぞれ林になり、さらに各々の林に堂皇(四面に壁のない堂)が建てられ、桃間堂皇・李間堂皇などがあると記載されている。

西晋時代に最も有名な私邸園林は石崇の金谷園である。ここは石崇の別荘でもあった。石崇は『思旧序』で、「却って長堤を阻み、前に清渠に臨む。柏木幾んど万株にし、流水舎下を周る。観閣池沼有り、多く魚鳥を養ふ」と記述している。また石崇は、所有する南洋の珍宝をこの園内に飾り、そして西晋の名士であった潘岳・陸機・左思らと「金谷二十四友」を結成し、よくここで詩を詠み、宴を開いていたという。そのため、「金谷春晴」はかねてから「洛陽八景」の一つと称されている。



魏晋時代の園林建設において、景観造りを主とした遊園型の庭園が生まれ、園林の設計や計画が始められるようになった。これは中国の古代園林建設における一つの重大な進歩である。

### (三) 北魏時代の園林

#### 1. 皇室園林

宮城の北側に前代を真似て皇室禁苑である華林園が造営された。禁苑の東に翟泉があり、これによって孝文帝により倉龍海と命名された。華林園に大海と呼ばれる池がある。これはすなわち漢代の

天淵池である。池の中に魏文帝曹丕に造られた九華台がまだ残っており、孝文帝は台の上に清涼殿を造り、宣武帝は池の中に蓬萊山という築山を増設した。築山の上に仙人館・釣台殿・虹閣などが造営され、その間は橋によりつながれた。春と秋の禊の日に、皇帝は水面に龍舟鷓首を浮かべて遊宴する。池の西側に氷の貯蔵室があり、暑い夏の季節に貯蔵される氷を取り出して防暑に使う。残念ながら、この規模が広大で、建築が華麗な皇室園林は東魏孝静帝太平2（535）年に戦火で破壊されており、遺構は少しも残っていない。

## 2. 寺院園林

北魏時代には仏教が盛んになり、洛陽において仏教寺院は1,300ヶ所余りに達した。これは寺院園林の繁栄を促進した。たとえば、永寧寺は当時で最大の寺院で、高い塔がそびえたち、宝殿が雄大である。また寺院内の空間を広げるため、四季折々の花や樹木を植え、「栝柏椿松は簷霤に扶疏たり。叢竹香草は階墀を布護す」る（『洛陽伽藍記』）。また、四つの門の外には青い槐の木が植えられ、清らかな水がめぐらされ、花や樹木と建物とが相映って趣をなし、寺院の環境美をより一層際立たせている。



永寧寺塔基壇の保護展示図

景明寺は宣陽門の外一里、御道の東にある。前に嵩山少室を眺め、北に都城によりかかり、青い樹木が茂りあい、緑の水が曲りくねっている。寺院の中に三つの池があり、菱と蓮などの水草が生えて「黄甲紫鱗」や「青鳧白雁」といった水禽が水中に泳いでいる。

宝光寺には古風の壁画と彫刻をもつ13重の仏塔がある。寺院の中に咸池と号する池があり、池の岸辺に青松翠竹が亭亭として立ち、池の中に菱や蓮で水面が覆われ、景観はとても優美である。

## 3. 私邸園林

洛陽城の西側に寿丘里があり、民間では王子坊と俗称される。この里坊に住んでいる人はおおよそ北魏時代の皇室や貴族である。北魏の楊衒之は『洛陽伽藍記』で、「帝族王侯・外戚公主は山海の富を擅にし、山林の饒に居り、争ひて園宅を修め、互相して誇競す。門を崇くし室を豊にして、洞戸房に連なる。飛館風を生じ、重楼霧を起す。高台芳樹は家々に築かれ、花林曲池は園々に有り。桃李は夏に緑に、竹柏は冬に青からざることなし」と述べている。北魏時代に有名な私邸園林は主として次のように取り上げられる。

**河間王元琛の園林：**河間王元琛の邸宅は洛陽城の西の寿丘里にある。周りの欄干が玉石で造られた井戸があり、金の釣瓶で水を汲み、そしてその縄は五色の絹糸で作られている。また園林の廊下は非常に美しく、水路は曲がりくねっており、池にはハスの花が咲き乱れ、ウキクサが水面に漂っている。元琛はよくここで皇族や貴族たちを招いて宴を催し、園内には宝物をつらね、自身の富をひけらかしていた。彼はまた、章武王の元融に「我の石崇に見えざるを恨まず、石崇の我に見えざるを恨む」（『洛陽伽藍記』）と言っている。

**臨淮王元彧の園林：**その邸宅は洛陽城西の西陽門の外にある。元彧は山水園林を好み、邸宅に大きい園林を造った。その中に花と木が錦のようである。元彧はまた賓客との遊宴と飲酒詠詩を好み、当時の人は「彧の室に入る者は登仙と謂うなり」（『洛陽伽藍記』）と言っている。

**張倫の園林：**張倫の邸宅は、洛陽城の東の昭德里にある。そして、その素晴らしい園林は諸侯たちも及ばなかった。園内には石を積み上げて景陽山を造り、あたかも自然のようである。当時、天水の人である姜質はこの景陽山を見たのち、広く世に知られる『庭山賦』を作った。

北魏時代には大きな規模を誇る皇室園林も、また精緻で美しい家屋を有し、形状や構造が上品で奥ゆかしい私邸園林も、いずれも北魏の都城である洛陽に美しい景観を作り出していた。この時期の園林は、入念な計画の下に設計されたものである。後漢時代のシンプルで粗野な純自然スタイルから北魏時代の精巧で自然の山水を典型的に再現するスタイルへの移行こそが、中国における山水園林が成熟期を迎えたことを示している。

# 汉魏洛阳故城保护及其园林

孙 红 飞

## 一、汉魏洛阳故城简介

汉魏洛阳故城位于今洛阳市东约 15 公里的伊洛平原上。故城始建于西周初年（公元前 11 世纪），废弃于唐初（公元 7 世纪），前后延续使用近 1600 年。东周、东汉、曹魏、西晋、北魏等朝代先后以此作为国都，据确切的历史资料，并经考古发掘证实，汉魏洛阳故城历 39 帝（王），作为都城共 541 年（因西周、东周遗迹发现较晚，材料较少，故习称“汉魏洛阳故城”）。

汉魏时期的都城洛阳，不但是全国政治、经济、文化、交通的中心，也是当时世界范围内著名的东方大都市，是丝绸之路的东方起点。汉魏洛阳故城人口以东汉顺帝永和五（AD140）年为最多，达 101 万以上。面积以北魏时最大，包括外郭城达 100 平方公里，是近代以前世界范围内最大的都城遗址。也是中国所有都城遗址中，历代定都总时间最长、规模最大且保存较为完整的古城遗址，对后来都城的建筑形制、设计规划影响达千年之久。

千百年风雨沧桑过后，千年锦绣帝都徒留残垣断壁，它们像闪烁的星辰诉说着那段辉煌的历史。现存主要遗址有：内城；宫城；北魏皇家寺院永宁寺遗址；中国第一座官办佛教寺院白马寺遗址；汉魏时期国立大学太学遗址；汉魏时期皇家礼制祭祀建筑明堂、辟雍遗址；中国古代最早的天文观察台灵台遗址；东汉刑徒墓地；以及曾因遭到大量盗掘并出土大量国宝的东周王陵——金村大墓遗址……

经过四十多年的勘察、发掘和研究，已基本搞清了汉魏洛阳故城的结构布局和主要内涵，为我们今天保护汉魏洛阳故城并研究汉魏历史提供了坚实的科学基础。1961 年，汉魏洛阳故城被中国国务院公布为第一批全国重点文物保护单位。1973 年，专门成立的洛阳市白马寺汉魏故城文物保管所，全面负责汉魏洛阳故城的保护与研究。2006 年，汉魏洛阳故城列入中国国家首批重点保护的 36 处大遗址之一。2007 年，正式列入丝绸之路联合申报世界文化遗产捆绑项目，使汉魏洛阳故城的保护展示力度和规模不断提升。现在正在进行汉魏洛阳故城国家考古遗址公园的建设以及迎接联合国申报世界文化遗产的考察验收准备工作。



## 二、近几年的汉魏洛阳故城文物保护工作

- 1、2007 年 1 月—2008 年 4 月，完成宫城正门阊阖门遗址保护展示工程。

- 2、2009年6月—12月，完成内城东北城墙遗址保护展示工程。
- 3、2010年5月—10月，完成内城东北城墙模拟马道建设工程。
- 4、2010年6月—12月，完成宫城二号门（止车门）遗址保护展示工程。
- 5、2010年10月—2011年3月，完成铜驼大街遗址保护展示工程。
- 6、2011年1月—4月，完成二号门前广场绿化工程。
- 7、2011年10月—2012年10月，完成宫城三号门（端门）遗址保护展示工程。
- 8、2011年11月—2012年9月，完成内城东城墙断面保护展示工程。
- 9、2011年12月—2012年10月，完成宫城西南角遗址保护展示工程。
- 10、2013年度开展的工作：内城西城墙遗址（中段）保护展示工程；西阳门内大街遗址保护展示工程；宫城墙、宫城门标识；丝绸之路验收专家考察道路的修建；西阳门遗址考古发掘和太极殿遗址的考古发掘等，现工作已经结束。

一系列工程项目的建设，初步形成了汉魏故城国家考古遗址公园的基本框架。

### 三、汉魏洛阳故城的园林

作为都城建设的一个重要组成部分——园林建筑，在洛阳则随着都城的建设而同样存在一个产生、发展、繁荣的过程。历朝历代的达官贵人、文人雅士在洛阳广筑园囿，致使洛阳有“天下名园重洛阳”之美誉。

#### （一）东汉园林

洛阳的园林建筑始于秦汉。汉代以前的园林建筑多为帝王游猎之所，规模较大，多依靠自然山水而建，保留的自然因素较多，总体上园林建筑则较粗糙而欠精细的设计，属于自然型的园林。

东汉时期洛阳城的园林，主要有上林苑、显阳苑、显明苑、鸿德苑、平乐苑、濯园、西园、广成苑等等。除上林苑在邙山上外，大多分布于城西北、城南一带，建筑有高大的殿堂和观阙，规模面积都较小。

**濯龙园**：在洛阳城西北角，可通北宫。园内筑湖为海，垒以岩障，修造“云台风观”，“引水飞泉，倾澜瀑布”，瀑布声响如雷。园内置以茂林修竹，使园林景色富有诗情画意而引人入胜。

**西苑**：位于洛阳城上西门内、北宫西，又称西园。兴建于顺帝阳嘉元（132）年，苑中建有宫殿，可以作为皇室的离宫、离园。面积较大，据《元河南志》记载“西苑周三千三百步”。汉灵帝中平二（185）年在西园内造万金堂。晋王嘉《拾遗记》记载了西园的园林景况，“采绿苔而被阶，引渠水以绕砌，周流澄澈，乘船以游漾。”

东汉时除了皇室大规模兴建园林外，一些官僚、贵族凭借自己的财富和权势也开始大规模兴建自己的私家园林，出现了沁水公主园、梁冀园等。其中以梁冀园规模最大。

**梁冀园林**：《后汉书·梁统列传》记载：“（梁冀）广开园囿，采土筑山，十里九坂，以像二嶠，深林绝涧，有若自然，奇禽驯兽，飞走其间。”

为建私人园林，梁冀可谓极尽奢华。梁园内放置很多人工假山，基本还是模仿自然的景色，这也成为后来私人园林模仿的对象。

#### （二）魏晋园林

西晋继承了曹魏洛阳城的建筑规模，魏、晋时期的园林建筑实为一体。主要有：芳林园、西游园、芳疏园、金谷园等。

**芳林园**：位于城内北部与宫城相接，汉时修建，曹魏时扩建。因讳齐王曹芳名，改称华林园。曹魏时将谷水引入芳林园，辟为天渊池。明帝时，又建灵禽园即动物园于芳林园中，内有各种奇鸟珍兽，都是由全国各地所献。曹魏景初元（237）年，在芳林园西北又铸黄龙与凤凰各一座，龙高四丈，凤高三丈，



更增加了芳林园的壮美之气。西晋时，增添了许多殿堂，大量栽植果木。据《元河南志》记载，增建有方壶、蓬莱山、曲池。园内增建有百果园，每种果自为一林，林中各建一堂皇（四面无壁之堂古称“堂皇”），有桃间堂皇、李间堂皇等名。

西晋时最著名的私人园林是石崇的金谷园，是石崇的别墅。石崇在《思旧序》中曾记述：“却阻长堤，前临清渠，柏木几于万株，流水周于舍下，有观阁池沼，多养鱼鸟”。石崇将其所得的南洋珍宝，置诸园中。石崇和西晋名士潘岳、陆机、左思等结为“金谷二十四友”，常常咏诗游宴于其中。“金谷春晴”，素称“洛阳八大景”之一。

魏晋时期的园林建设出现了以造景为主的游观景园，开始出现园林的设计和规划，这是中国古代园林建设的一个重大进步。

### （三）北魏园林

#### 1. 皇家园林

北魏时在宫城北面，仿前朝建造了皇家禁苑——华林园。园东有翟泉，孝文帝因此名之仓龙海。华林园中有大海，即是汉代的天渊池。池中还存有魏文帝曹丕所建的九华台。孝文帝在台上建造了清凉殿。宣武帝在海内造蓬莱山，山上建有仙人馆，上有钧台殿，并作虹蜺阁，中架天桥。每到春秋禊日，皇帝就乘坐鸂首龙舟，泛游于水上。海西有藏冰室，在炎热的盛夏，就把所藏得冰块取出，以作防暑降温之用。可惜的是，这座规模宏伟、建筑华丽的皇家园林，在东魏孝静帝太平二（535）年毁于战乱，遗迹已荡然无存。

#### 2. 寺院园林

北魏时崇信佛教，洛阳佛寺达1300余所，促使寺观园林兴盛起来。永宁寺是当时最大的一所寺院，高塔耸立，宝殿巍峨，为增加、丰富寺院空间的层次和容量，还栽种了四季花木，“栝柏椿松，扶疏簷霭；丛竹香草，布护阶墀”。四门外，种植着青槐，绿水环绕，花木与建筑相映成趣，更衬托出寺院环境的优美。

景明寺，在宣阳门外一里御道东。前望嵩山少室，北依京城，青林婆娑，绿水萦绕。寺有三池，生长着菱藕水草，有黄甲紫鳞或青鳧白雁，沉浮水中。

宝光寺有十三级浮屠，画工雕刻，形制甚古。园中有海，号咸池。池中菱荷覆满水面，岸边青松翠竹，亭亭玉立，风景十分优美。

#### 3. 私家园林

在洛阳城西有一寿丘里，民间号称为王子坊，坊里内居住的都是北魏的皇室、贵族。北魏杨衒之在《洛阳伽蓝记》中记载：“帝族王侯，外戚公主，擅山海之富，居山林之饶，争修园宅，互相夸竞。崇门丰室，洞户连房。飞馆生风，重楼起雾。高台芳树，家家而筑。花林曲池，园园而有。莫不桃李夏绿，竹柏冬青。”北魏时期著名的私家园林主要有：

**河间王元琛园林：**河间王元琛宅第在洛阳城西的寿丘里，园中凿井，用玉石作栏杆，用金罐汲水，五色丝为绳。其园林廊庑绮丽，沟渎曲折，朱荷出池，绿萍浮水。元琛常常宴请宗室贵族，这时就在园中陈列他所拥有的宝器，以炫耀他的富有，他曾对章武王元融说：“不恨我不见石崇，恨石崇不见我”。

**临淮王元彧园林：**其宅第在洛阳城西西阳门外，元彧喜爱山水园林，在他的宅第内大兴园林，其园内花树如锦。元彧又喜会宾客，饮酒赋诗，当时人们称“入彧室者，谓登仙也”。

**张伦园林：**张伦宅第在洛阳城东昭德里。其宅第华丽，所建园林山池之美，诸王莫及。园中砌石造景阳山，有若自然。当时有天水人姜质，见到了景阳山，作《庭山赋》，流传于世。

北魏时期不论是规模宏伟的皇家园林，还是房舍精美、形制幽雅的私家园林和寺观园林，都为北魏都城洛阳增添了美的景色。此时的园林是经过规划的。从东汉时期的简单、粗犷的纯自然向北魏时期的精细、典型地再现自然山水的过度，标志着中国山水园林开始趋于成熟了。